

“ともの家 後援会” が できました



1 家庭的なぬくもりを・・・後援会の誕生

家庭的なぬくもり・・・それは、施設を考えられるご本人・ご家族が強く求められることではないでしょうか。

ともの家は設立当初から「福祉の営利企業化」に強く反対し、利用者個々の生活力向上と安定を第一に考えてまいりました。しかし、福祉を巡る国の財政環境が年々厳しくなる中で、電力や建設業など全国的大手企業が進出する反面、財政基盤の弱い良心的な小規模事業所が姿を消しつつあります。

大手の資金力という基盤に対し、ともの家が基盤とすべきものは小規模施設の最大の特徴を生かした「人を大切にされた家庭的なぬくもりのある介護」だと考えます。

そのためには、「質の高い介護は、質の高い介護者によって保障される」をモットーに、介護現場に立つ職員の質の向上に努力してまいりました。

ともの家の創立者であり、京都佛敎大学福祉学部の教授であった永和良之助前理事長を失った時点で、全国の心ある方々から「ともの家の理想を堅持し、ともの家を支えていく後援会をつくろう」という声を持ち上がり、今年（平成 28 年）1 月に、「ともの家後援会」が誕生しました。

2 どのような会なのか・・・ともの家後援会のあらまし

① 次のような約束でつくられました

- i) ともの家の理想に賛同し、経営を支援する意思のある方を会員とする。
- ii) 会員は年会費を納める。年会費は 1 日 11 円の支援で 4,000 円を 1 口とし、1 口以上とする。
- iii) 入会、退会は自由であるが、退会申し出がない時は次年度も継続するものとする。
- iv) 後援会機関紙を年間 4 回発行し、会員に配布する。毎年度末に会計報告を行う。
- v) 会費の運営・執行は、ともの家理事会に一任する。

② いま会員は

松山市をはじめとする愛媛県内から 30 名が会員になりました。かつて家族がともの家に入居されていた、いわば「ともの家の同窓生」が何名もいます。他方、県外からは故理事長と言動を共にされた北海道・岩手・新潟・福井・静岡・愛知・三重・奈良・滋賀・京都・兵庫・和歌山・岡山・広島・山口・鳥取・島根・福岡県などから、33 名が入会されました。現会員数は計 63 名です。

③ 会員の声

振込用紙の通信欄に寄せられたメッセージを少し掲載します。

- * 後援会があったらいいなと思っていました。これからもよろしくお願いします。
(松山市・女性)
- * いつまでも先生の目指した福祉施設を守ってください。(松山市・女性)
- * 福祉の輪を強くしていきたいですね。(三重県・男性)
- * 高い志を永く続けて下さい。理想の実現。(静岡県・男性)
- * 地域に安心できる施設があることをうれしく思います。(松山市・女性)
- * 素晴らしい職員皆さまの理事長への尊敬と愛情。彼の優しい笑顔と言葉を思い出しつつ、読ませて頂きました。(奈良県・男性)
- * 後援会設立、支援できて幸せです。今年は2口、この後どれくらい支援できるか未知数ですが、こういう形(道)を作ってくださいありがとうございます。(伊予市・女性)
- * 私の精神的な支えの一つです。今後ともよろしくお願いします。(兵庫県・男性)
- * 創設者の理念を引き継ぎ、本当の福祉の道を求めて、一步ずつ、あせらず、ゆっくりと・・・それを見守り、支える会であってほしいと思います。(岩手県・男性)
- * ともの家だよりを読む都度、そのケアの細かさと温かさに感動させられます。職員の方々による日々の努力に敬意を表し、法人の理念と使命に深く賛同させていただきます。
(新潟県・女性)

3 何をしてきたか・・・今年度の活動

i) 年4回の機関紙「寒梅」の発行

創刊号 2月 第2号 5月 (以上 発行済み)

第3号 8月 第4号 11月

ii) 青い鳥健康教室の開催 (別掲)

- * 毎週土曜日の午後10時をワンサイクルとし、年間6回実施の予定ですが、教室開催のための用具費用約72,000円と、教室運営費は後援会費から出されています。

4 これからのこと・・・組織としての在り方

ともの家の理事の間で話し合われている、いくつかの問題点を挙げておきます。

- i) 後援会は独自の会費を集めるともの家の外郭団体である。後援会組織としての代表者や幹事を設定すべきではないか。
- ii) 全国に散在する会員を考えると総会開催は困難だが、その代行として半数を占める県内会員による協議会を開いてはどうか。
- iii) 今後の会の発展には、県内会員増加を考えねばならない。その基になるのは、ともの家での介護の質の向上である。